

「国際感覚を身に付けよう」

3-



## <目次>

### I. 導入

### II. 通説

#### <食生活>

- ・朝、昼、夕の食事スタイル
- ・マナーについて
- ・食事でもエコロジー

#### <学校教育>

- ・ユダヤ式教育
- ・レッシュョ、エミリア教育
- ・フレネ教育
- ・オランダ教育
- ◎ピラミッド・メソッドについて

#### <生活スタイル>

- ① アメリカ
- ② イギリス

### III. 自分の考え

### IV. 考察

### V. 参考文献

# I. 導入

世界には約196ヶ国もの国があります。そして、私たちはその中の一つ「日本」に暮らしています。日本は、世界から文化や礼儀正しさ、親切さなど色々なことで高く評価されています。

では、海外の国の文化や習慣はどうなっているのでしょうか？私は将来海外で生活してみたいなと思っているので、日本のやっていることが外国ではどのくらい親切なことなのか、調べたくなりました。

## <予想>

- ・日本よりも少し雑（日本のほうが丁寧？）
- ・食生活がだいぶ違う
- ・学校や家庭の教育はきちんとしていそう

# II. 通説

## <食生活>

ひと言でいうと「シンプル」。日本のように5~6品は必ず食卓にでてくるわけではなく、大まかに主食・副菜、メインという内容になります。

- ☞朝食☞ → 忙しい朝は、火を使わないでパパッとできるもの。  
学校で勉強に集中できるように、朝食はしっかりと。  
例) アメリカ、カナダ... シリアル、トースト、牛乳（たまに目玉焼き、ベーコン）  
オーストラリア... シリアル、トースト（たまにサラダ）、牛乳  
イギリス... シリアル / オートミール / トースト、牛乳



☞昼食☞ → サンドウィッチやパスタなどをランチBOXに入れて持参。日本では母親が作ってくれますが、海外では自分で作るのが基本。

例) アメリカ・カナダ... パスタ、ヨーグルト、シリアルバー、フルーツ、ジュース  
オーストラリア... サンドウィッチ(ハム、トマト)、マフィン、スナック、バナナ、ジュース  
イギリス... サンドウィッチ(ハム、チーズ)、りんご、ジュース



← アメリカの昼食

☞夕食☞ → 日本ではごはんが主食ですが、海外では国によって異なる。アメリカではパンやパスタ類、オーストラリアではパンやじゃがいもなど。  
主食の他、欧米では肉料理に野菜というのが一般的  
移民を受け入れているところでは、イタリア料理や中華料理など多国籍の料理がでること。

! ここでポイント !

海外では冷凍食品がよく食卓に出ること!!?

理由① 食料品の買い出しは週1回!

→ 広大な土地の国では車を走らせて大型のスーパーに行かないといけない。だいたい週1回。そのため主婦にとって冷凍品は強い味方。

理由② ママはキャリアウーマン。共働きの家族が多い。  
→ 主要な英語圏では女性の社会進出も目覚ましい。  
そんな忙しいママはレンジで調理して、すぐに食べられる  
冷凍食品を適宜活用する。

### △マナー△

海外の食事は夕方6時頃から始まる。音を立てて食べることはマナーが悪いという認識があるので、スパゲティやスープは音を立てずに食べる。基本的にフォーク、ナイフを使う。

### 食卓でもエコロジー

日本では少なくとも3~4つのお皿に分けて食べますが、欧米ではワンプレート料理が主流。なぜなら、後片付けの際に水をたくさん使わなくて済むようにするためだとか。

### <学校教育>

子供の教育で多くの教育法(メソッド)が取り入れられている。その中の4つ「ユダヤ式教育」「レッツォ・エミリア教育」「フレネ教育」「オランダ式」教育を紹介します。

① ユダヤ式教育... 子供の興味を引き出し、また子供の言葉にも関心をもつという方法。家族の中で育まれる信頼感があるからこと、家庭での子供との関わりに重点が置ける。

② レッツォ・エミリア教育... 子供1人ひとりの創造性・可能性に焦点をあてた教育方法。アートを通して、子どもたちが自由に表現する中で学びを深めていく。

③ フレネ教育… フランスの教育者である、セレスタン・フレネが提唱した教育法。子供を主体に置くところから生まれた実践的な方法。

④ オランダ式教育… ユニセフが行った調査で「幸福度調査」があり先進国の中で総合1位を獲得したオランダ。客観的な数値だけでなく、実際にオランダの子供の多くが幸福感を抱いていると言われている。一番有名なのは、「ピラミッド・メソッド」です。

○ピラミッド・メソッドとは？

→ ・しっかりと楽しく遊んでいて、遊びの種類も豊富  
・言葉の表現が具体的化  
・物言を自分で解決しようとする  
・一人ひとりが自分に自信をもち、自主性が育つ

} 子供の変化

ピラミッド・メソッドは主に6歳までの子供を対象とした幼児教育。その時身につけた基本的信頼や自主性はその後的人生に大きな影響をもたらすのだとか…

<生活スタイル>

① アメリカ

“家の中は土足”

→ アジアの文化色が強くなってきている最近、靴を脱ぐ家庭もありますが、基本は土足。ベットに腰掛けたり、ちょっと横になるときは靴を履いたままです。脱ぐのはシャワーを浴びるときや寝るときぐらいです。

## "授業のスタイル自由"

→制服である一部の私立校を除き、先生も生徒も基本的に私服です。小学生でもピアスをしたり、ファッションやお守りとしてタトゥーを入れている人もいます。授業によっては飲食OKの場合があり、おやつを持参することができる小学校もある。通学ではスケートボードを使用することは珍しくなく、入学式や卒業式はない。

## "ファーストネームで呼び合う"

→まるで友人のようにお互いのことをファーストネーム(名前)で呼び合う。

## ② イギリス

### "お気に入りの公園をみつけて憩いの場にする"

→曇りがちな日が多いイギリスは、天気の良い日もなければ「自然」を楽しむとお気に入りの公園に行き、日向ぼっこしたり読書に耽ったりする。

### "地球にやさしい環境で生産された食材を日常の食卓に"

→自然を愛する人は「食」に関しても当てるイギリス。農薬や化学肥料を使わずに生産されたオーガニック食材への意識は高い!

チャールズ皇太子自ら設立したオーガニックブランド「ダッチー・オリジナルズ」はとて入気で、国民にオーガニックの良さをリアルに伝える存在になっている。

### "自分のペースで自然を感じながら歩く"

→緑を愛するイギリス人は、自然と一体になれるウォーキングは切り離せない生活の一部。そのようなイギリス人のウォーキング好きをさらに後押しするのが、歩くことを楽しむための道「フットパス」。森林や田園地帯、古い街並みなど昔からある。ありのままの風景が楽しめる!!

### "自然の景観美を大切に するガーデニング"

→作りこまれたフランス式やイタリア式と違って自然なままの姿を楽しむイギリスはイングリッシュガーデンを作るのに、フラワーマーケットは欠かせない! 草花だけでなくガーデニンググッズも売っている。

# III. 自分の考え

〈調査してわかった事〉

- ・日本の生活はどれだけ良いか知れた。  
朝食は似ていたが、昼食はお母さんが丁寧に朝早くから作ってくれるお弁当が私の中では当たり前のようになってきた。だから、もっとお母さんに感謝の気持ちを伝えるべきだと感じた。
- ・海外の教育は、日本のように決められたやり方ではなく、子どもの意志を尊重できるやり方なのは、子どもにとっても親にとっても心が大きく(広く)なるのではないかと思った。
- ・海外のやり方は、ムラが無く、ラクにするにはどうしたらいいかを前々から考えて行動しているんだと思った。自分も見習いたい(笑)。
- ・日本では当たり前でも、海外の別の国では当たり前じゃないだから、日本が基本なんだと捉えずに、その国のそのやり方を学びもっと知りたいと思う。

# IV. 考察

〈疑問に思ったこと、課題〉

- ・海外と日本のやり方の差はいつから今のようになっているのか？
- ・海外に留学し、生活していくには、今のうちからしておくべきことは何か？
- ・日本はなぜこんなにも様々なことに事細かくやるのだろうか。
- ・外国の人は、自分の意見がスバツと言える。私はそれが今できなくなっているのだから、外国の人のやり方を真似して、自分の意見をきちんと言えるように頑張る。



## V. 参考文献

- 2018 © mamaki.jp
- [www.kaplaninternational.com/jp/.../about-american-cult...](http://www.kaplaninternational.com/jp/.../about-american-cult...)
- kinarino.jp